

Genius English Communication I, II

大学入試へつなげる教科書の活用法



秦野進一

大学入試に必要とされる読解力

国公立の二次、私立の難関大学の昨今の入試の読解問題の総語数はおよそ2000～2500語程度である。読解以外の問題もあるので、受験生たちは難解な英文をかなりの速さで読み、かつ正確に内容を読み取ることが求められる。このような読解力は教科書の1つの単元を数時間かけて読み進めていくような指導だけではなかなか身につかない。必要とされるのは、ある程度の分量の英文を素早く読み進める速読力と、特に重要な部分を丁寧に読みとる精読力である。まさに新学習指導要領のコミュニケーション英語IIに関して述べられている「速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする」力が求められているといえる。

実践している多読指導例

勤務校では従来、教科書を使用して総合的に英語を学習する授業と、副教材を使用して論説文中心の難解な英文の精読をする授業を並行して行い、かつ通称「ホームリーダー」という、年間8冊程度の読み物教材を生徒に読ませる多読指導を行っている。この多読活動は生徒が自力で読み進めるものとし、比較的平易で、内容の面白いものを選んでいく。分量的には8000語程度のものから洋書1冊まで様々である。多くの英文を読むことで、英語に慣れ、読解力・速読力の養成に役立てることを目的としている。また教科書1課分の英文を1枚のプリントにして各課の最初の授業時に一気に速読で読ませる活動を行うこともある。この場合は簡単な内容理解を問う質問を用意し、そ

の答えが書かれている部分に下線を引かせながら読ませている。質問がヒントとなって読みやすくなり、読むこと以外（答えを書きだすこと等）に時間を使わず、読解に集中させるためである。多読と精読を並行して行わせることで、目的に応じた読み方ができることを指導目標としている。

本課と同じテーマの速読・多読教材 Read On!

教科書の英文というのは、語彙や文法がきれいに整えられているので安心できる反面、大学入試を見据えた場合には、分量・内容面で物足りなさを感じることも多い。私はよく学習した単元に関連したテーマの英文をウェブ上や過去問から見つけて生徒に読ませているが、適したものが見つからないこともある。「せっかく興味深い内容について学習し、生徒の関心も高まっているのだから、そのタイミングで関連するテーマの英文を多く読ませたい」という思いから生まれたのが、新*Genius*に設けられたRead On!（以下R.O!と略）である。本課で扱われているテーマに関連した英文が各課ごとに計10本用意されているので、本課の学習後に読ませることで、学習内容を深く理解し、読解量も倍以上に補強することができる。

*Genius I*の中から内容をいくつか紹介すると、5課では闘病に苦しむ幼い女の子が、自宅前のレモネードスタンドで集めたお金を、医師が病気を治すための研究に使うために寄付をしたことからアメリカ中に広がった“Lemonade Days”の運動についての英文を読む。その後のR.O!では実際にアメリカでこの運動を進めているAlex's

Lemonade Stand 基金のウェブページから、関心を持った人がレモネードスタンドを始めるにはどうしたらよいかのノウハウを説明した英文が載っており、現在どのようなサポートが提供されることで運動が広まっているのかが理解できる。また8課では地球規模での水資源の問題を考える論説文を読み、R.O! では実際に水をくむために毎日何時間もの道のりを歩く女性たちの生活の様子が紹介されているので、論説文で読んだテーマを一層深く理解できるであろう。

R.O! で扱っている英文のジャンルは新聞記事、ウェブサイト、ルポ、絵本と多岐にわたっているので、生徒にいろいろな種類の英語に慣れさせることができる。今までの倍の量の英文量ではとても授業時間では扱いきれないと思われるかも知れないが、R.O! の基本的なコンセプトは多読・速読用教材である。難しい語には英文のすぐ右側に傍注で意味が示されているので、生徒は読む際に何度も辞書を引くこともなく、視線を右にずらすだけでその語の意味を理解し、読解に集中して読み進めることができる構成になっている。R.O! を読ませることで様々な種類の英文読解力の増強に役立つだけでなく、本課で学習したテーマについて深く理解し、考えることができるのである。

Read On! の授業での活用例

R.O! の標準的な扱い方としては、1課を学習した後で授業を1時間充当して学習するというやり方が考えられる。例えば *Genius I* の教科書の最後の R.O! 教材である “Alia’s Mission” を題材に50分の授業構成案を考えてみたい。この話は湾岸戦争のときに、図書館の本を守るために司書の1人が近隣の人々と協力して自宅やレストランに本を運び、本の消失を免れたという実際にあった話を元にした漫画が出典である。1年生の終わりに、この程度の分量(1703語)の英文の速読に挑戦させたいと考えて原文をほぼ全文掲載した教材である。この英文を1分間に120語程度のペー

スで読ませるとして約15分～20分を充てる。授業の冒頭に一齐に読ませ、経過時間を板書して自分の wpm を把握させる。その後、課末の Questions の答え合わせをしながら内容の確認を進め、重要表現や語彙の指導を行う。本課で学んだ内容と合わせて感想を書かせることで、常に自分の意見・感想を持つ習慣がつく。可能ならば感想を英語で書かせる表現活動につなげることもできる。

さらに本課の課末の Discussion や Project と合わせることで、学んだテーマについて自分の考えを持ち、英語で表現し、発表して意見を交換するという形の post reading 活動に発展させることができる。本課だけで手いっぱいという場合には、自宅での課題とすることもできるし、長期休業中の課題にすることも可能である。

他のお勧め Read On! 教材

Genius II の中からもいくつかのお勧め教材を紹介したい。4課では、イスラエル兵の誤射によって12歳の息子の命を奪われたパレスチナ人の両親が、息子の臓器を病気で苦しむイスラエル人たちに提供することで、平和を強く希求する思いを伝えた話を読む。対応する R.O! では、イスラエルの18歳の少女が日々の生活や平和への思いを書いた英文を読むことで、両方の立場を知った上で平和について考えることができる。後半にはやや難易度の増す教材もあり、9課ではNHKのハーバード白熱教室で有名なサンデル教授の「自由とモラル」の論説文を読み、R.O! では数々の企業家を輩出してきたスタンフォード大学企業家コースのティナ・シーリグ教授による、逆転の発想の論説文を読む。他にも生徒の知的好奇心を刺激し、本課のテーマを深く理解する教材が *Genius I～III* の各教科書にたくさん用意されている。多くの先生方が、Read On! を活用することで生徒の速読・読解力増強に役立てていただくことを切に願っている。

(はたの しんいち・東京都立西高等学校教諭)